

体験学習選抜(商船学科)とは

令和8年度 体験学習選抜の概要

募集人員

体験学習選抜および推薦選抜を合わせて、商船学科の入学定員の85%を超えないものとします。

出願資格

下記の各要件に該当し、特に船・海に興味があり、本校への入学意志が強固な者とし
ます。

- (1) 次のいずれかに該当する者
 - ①令和8年3月に中学校卒業見込みの者
 - ②令和8年3月に義務教育学校を卒業見込みの者
 - ③令和8年3月に中等教育学校の前期課程を修了見込みの者
 - ④令和8年3月に文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了見込みの者
- (2) 商船学科の「身体基準」を満たす者
- (3) 学業成績が、中学校第2学年から第3学年までの9教科の評定が全教科5段階評価で3以上の者。

※体験学習選抜に出願する者は、推薦選抜に出願することはできません。

入試日程

- (1) Web 出願エントリー期間
令和7年12月 4日(木)～12月17日(水)
- (2) 出願書類受付期間
令和7年12月11日(木)～12月17日(水)
- (3) 検査日
令和8年 1月10日(土)
- (4) 合格発表日
令和8年 1月16日(金)

選抜の実施方法

提出された調査書、志望理由書及び本校が行う体験学習、感想文、面接の総合判定により行います。

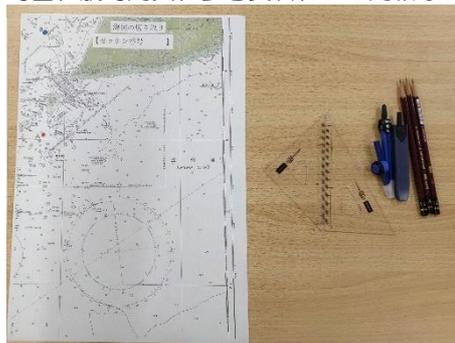
商船学科 体験学習の課題

令和5年度

- テーマ
航海計画をつくろう！

- 用意されるもの

海図、航海用具、参考資料、メモ用紙など



- 体験学習の内容

今回は、商船系学校を卒業後すぐに就職先船会社から三等航海士として要求される業務の一つ「航海計画」について講義にて学習してもらいます。次に、各自で航海計画を立案した後に、各グループで各自が定めた航行予定線の是非を議論し合い、最終的に一つの航海計画にまとめてもらいます。講義では、一般地図と異なる海図の扱い方、航海士が業務で使用する水路書誌のうち航海計画で最も活用される水路誌の利用方法、そして海図上への情報記入に使用する井上式三角定規・デバイダー・コンパス・鉛筆の持ち方等を学習してもらいます。

- 出題のねらい

どの職種もそうですが船舶運航業務はとくに、船員同士で助け合って運航に差し障る問題に対して答えを導き出さなければならないといった、船舶という閉鎖的な環境で実施されます。この助け合いに肝要な協調性やコミュニケーション力はもちろんのこと、船員各自のリーダーシップや前向きな姿勢といった船員の資質を評価します。評価については、今回のテーマである航海計画をどのようにまとめるのか、そのプロセスを重視します。

- ここがポイント！

この選抜課題は、正解にたどり着くことを目的としていません。課題といった一つの疑問についてどこまで粘り強く最適な解決策を案ぜられるかを目的に、どれだけ各自が懸命に考えられるか、適切にコミュニケーションをとれるかがこの選抜での課題では重要となります。

課題に取り組むという点で緊張されるかと思いますが、議論の場でリラックスした状態で発言できることも重要となります。

令和6年度

- テーマ
積み荷に適した船を考えよう！

- 用意されるもの

カラーボード、両面テープ、ハサミなど



- 体験学習の内容

船舶はできるだけ多くの積み荷をできるだけ速く運ぶことが目的です。そこで、この体験学習選抜では、最初に実際の船の荷物の積載量・速度と船の形についての講義を受けます。その後、グループごとに、できるだけ多くの積み荷を、できるだけ速く運ぶというテーマで話し合い、最適と思われる船の形を話し合っ決めて、グループ内で協力して製作します。ナットを積み荷に見立てて性能試験を行い、狙い通りの特性なのか、改良するにはどうすればよいのか等を話し合っまとめてみます。

- 出題のねらい

自分で考えたことをわかりやすく説明し、仲間に理解してもらえることはとても大切です。課題をグループ単位でこなしてもらい、リーダーシップや協調性、そして、自分の意見をグループ内に伝えるコミュニケーション力などを評価します。

- ここがポイント！

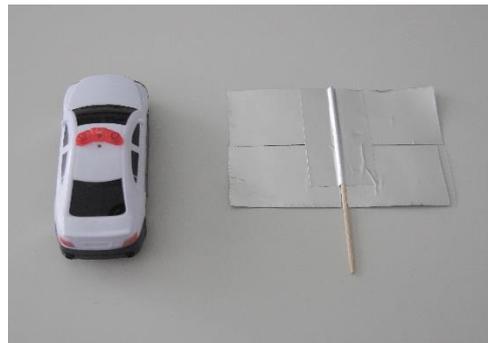
船を製作者・設計者の視点で考える体験を通して、新たな知見が得られることを目的としています。グループ内で協力しながら意見をまとめられるか、そして途中であきらめずやりとげることができるかが重要です。この選抜で与えられる課題は、正解を得ることが目的ではありません。各自が一生懸命考え、互いに意見を交わしあえること、そして、グループ内の誰とでも仲良く協力できることが重要となります。

令和7年度

- テーマ
商船に風の利用は有効か 確かめよう

- 用意されるもの

台車、帆（マスト付き）、メモ用紙など



- 体験学習の内容

船舶は他の輸送機関と比べて経済性が優れるため、今後とも重要度を増し、省エネや地球温暖化ガスの削減において更なる性能向上が求められています。船舶による再生可能エネルギーの利用法の一つとして、「帆走」が再注目されています。今回の体験学習では、まず講義で帆走の原理を学び、グループ単位で机上の実験を行い追い風時、横風時、向かい風時の帆走を模型台車で確認します。次に、向かい風の際に帆走（風の利用）がどの程度可能か確認し、実験の結果をもとに「商船に風の利用は有効か」について議論し、結論を導いてもらいます。

- 出題のねらい

船舶運航業務はとくに、船員同士で助け合い、運航に差し障る種々の問題に対し迅速に対処することが求められます。そのため協調性やコミュニケーション力はもちろんのこと、船員各自のリーダーシップや前向きな姿勢といった船員の資質を要します。評価については、実験の実施と船舶の帆走の有効性の議論を通じてどのように拘わるのか、そのプロセスを重視します。

- ここがポイント！

この選抜課題は、正解を導くことを目的としていません。工作の量や器用さもあまり影響しません。手元の機材を使用し、実験と議論を通じ、周囲と協調しつつどれだけ各自が懸命に考えられるか、時間内にどのようにグループとしての結論を出すか、そういった取り組みのプロセスを評価します。

課題に取り組むという点で緊張されるかと思いますが、議論の場でリラックスした状態で実験や発言ができることも重要となります。